

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2単位)	3. 科目番号	GEBS1107
2. 授業担当教員	宮田 繁幸		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・レポート課題</p> <p>身の回りで起きている問題や関心のある社会問題について、自分で課題 (テーマ) を設定し、講義の内容を踏まえてレポートを作成する。</p> <p>※レポートは2000字程度とし、第14回の授業で発表し提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>河野哲也著『レポート・論文の書き方入門 (第4版)』慶応義塾大学出版会、2018。</p> <p>【参考書】</p> <p>大島弥生、池田玲子、大場理恵子、加納なおみ、高橋淑郎、岩田夏穂、著 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現第2版—プロセス重視のレポート作成—』ひつじ書房、2014。</p> <p>※必要に応じて、授業内でプリントを配布する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解しているか。 2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 積極的参加 (発言、討議、取り組み等) 総合点の30% 2 レポート (小課題を含む) 総合点の70% <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加すること。 2. レポートや課題の提出期限を遵守すること。 3. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けること。 <p>本科目では、学生同士のグループ討議による学び合いを中心に授業を進める。異なる考えに触れることで、個々人の思考の深化や視野の拡大につながることを期待する。そのため、事前学習での課題の取り組みが重要である。多くの文章を読み、かつ多く文章を作成していくことを通じて、自分の考えを書き言葉で効果的に表すトレーニングを積んでほしい。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	科目のガイダンス (シラバス、授業の進め方、グループ分け) 「本授業に期待すること」を文章化する。	事前学習	本授業に期待することについて、考えをまとめておく。
		事後学習	教科書 pp. 5~11 を読み、レポート・論文の基礎事項をまとめる。
第2回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第2章を基に、テキスト批評の仕方を理解する。また、配布されたテキストの要約をする。	事前学習	教科書 pp. 14~30 を読んでおく。
		事後学習	テキスト批評の仕方について、整理しておく。
第3回	前回の授業で要約したテキストに対する批評文を発表し、グループ相互で検討する。	事前学習	前回の授業で要約したテキストについて、自身の批評文を作成する。
		事後学習	授業における検討の結果、文章構成において不十分であった部分を確認し、修正する。
第4回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第3章を基に、論文・レポートの要件と書き進める上での注意点について理解する。	事前学習	教科書 pp. 32~39 を読んでおく。
		事後学習	論文・レポートの要件と書く上での注意点を整理しておく。
第5回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第3章を基に、論文の構成部分と順序、各部分で書く内容について理解する。	事前学習	教科書 pp. 40~56 を読んでおく。
		事後学習	論文の構成 (内容を含む) ・順序について整理しておく。

第6回	配布したパラグラフ・ライティングに関する資料を基に、パラグラフの構造について理解する。	事前学習	パラグラフに関する配布資料を読み、パラグラフの構造について考えておく。
		事後学習	検討の結果、文章構成において不十分であった部分を確認し、修正する。
第7回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第3章を基に、論証の仕方について理解する。	事前学習	教科書 pp. 32～56 を読み、論文の要件と構成について考えておく。
		事後学習	説得力のある論述の仕方について、整理する。
第8回	アウトラインに関する配付資料を基に、文章を構造化するためのアウトライン作成について理解する。	事前学習	アウトラインに関する配付資料を読み、アウトラインのイメージを持っておく。
		事後学習	文章構成の骨組となるアウトライン作成の意義について整理する。
第9回	表記方法に関する配付資料を基に、分かりやすい文章を書くための表記の仕方について理解する。	事前学習	分かりやすい文章にするための表記の仕方について考えておく。
		事後学習	読み手に分かりやすい表記の仕方について、整理しておく。
第10回	与えられた課題①について、肯定派と否定派に分かれ、自己の立場を主張するための文章をグループ単位で作成する。	事前学習	一人一人がディベート用の文章を作成しておく。
		事後学習	グループで検討した最終の文章と自身の文章を比較し、不足部分を確認する。
第11回	肯定派、否定派双方の文章を読み、どちらに説得力があるか、根拠を伴って審査する。	事前学習	ディベート用の文章を推敲しておく。
		事後学習	より説得力をもつ文章の書き方について、整理しておく。
第12回	前回とは異なる課題②について、肯定派と否定派に分かれ、自己の立場を主張するための文章をグループ単位で作成する。	事前学習	一人一人がディベート用の文章を作成しておく。
		事後学習	グループで検討した最終の文章と自身の文章を比較し、不足部分を確認する。
第13回	肯定派、否定派双方の文章を読み、どちらに説得力があるか、根拠を伴って審査する。	事前学習	ディベート用の文章を推敲しておく。
		事後学習	グループで検討した最終の文章と自身の文章を比較し、不足部分を確認する。
第14回	自分でテーマ設定した課題レポートの発表とグループによる検討。	事前学習	文章の推敲、話し方の工夫など、発表の準備をする。
		事後学習	レポートの検討課題を基に、これまでの学習内容を振り返る。
第15回	まとめ (本授業で期待していたこととその成果について文章化し、第1回の授業で書いた文章と比較してみる。)	事前学習	本授業の成果について、考えをまとめておく。
		事後学習	自作の文章の比較を基に、これまでの学習内容を振り返り、文章表現の方法を確認する。